

特集 農業に吹く新しい風

ユーカリとぶどうへの挑戦

いま神栖市の農業に新しい風が吹いています。地元産のユーカリでおしゃれなフラワーアレンジメントをしたり、地元で育った採れたてのぶどうを食べたり……。そんな楽しみ方を広げてくれるハサキ・グリーンファームズ研究会を紹介します。



ユーカリの苗



大きく実ったシャインマスカット



千両・若松農家の新たな挑戦

神栖市は、日本一の千両・若松の産地ですが実はその陰で、出荷作業が年末に集中することや、生活スタイルの変化で年々需要が減っていることなど、生産者を悩ませている問題がありました。

そこで、年間を通じて出荷でき、フラワーアレンジメントに使いやすい枝もの花材を取り入れようと、有志4人で平成8年にイタリアンスカスの栽培をスタート。その後、千両・若松の栽培農家に加え自営業者や会社員、新規就農者など仲間が増え、平成20年にはユーカリ栽培に乗



ハサキ・グリーンファームズ研究会の皆さん

り出しました。

そのグループがハサキ・グリーンファームズ研究会です。今では会員数も



ユーカリを使ったリース

14人に増え、花きから果樹まで栽培品目をどんどん増やし、他の産地や市場からも注目されるような成果をあげています。今回は、神栖市の農業に新しい風を吹き込むハサキ・グリーンファームズ研究会に話を聞きました。

鉢で育てるシャインマスカット

最近の大きな挑戦は、ぶどう栽培です。果樹栽培は初めての試みであり、しかも中心となったのは新規就農した菅谷亮介さん。非常に難しいとされるぶどう栽培をなぜ決断したのか、聞いてみました。

「5年前に、知人の紹介でぶどう農家さんを訪ねる機会がありました。そこで知ったのが根域制限栽培という方法です。地植ではなく鉢で育てるため、土を選ばないうえ水の管理もしやすく、しかも成長が早いんです。これなら神栖市でもできる、面白そうだったのがきっかけです」

最初は50坪でスタートし、現在は250坪のハウスに100鉢以上が並んでいます。そのハウスを見て、イメージしていたぶどう畑の風景とまるで違うことに驚きました。鉢から出た幹は、上ではなく地面と平行に横へ伸びています。その幹から何本も上向きに枝が出て、小さな芽がつき始めていました。これからのような作業をしていくのか教えていただきました。

「ぶどうは一枝に一房だけ実らせます。3月に枝を間引く、芽かき、4月に必要な葉の枚数だけ残して枝を切る、摘心、6月に混み合った粒を間引く、摘粒、をします。これらは、実にたっぷり栄養を送って一粒一粒を太らせるために欠かせない作業です。その後、袋かけをして収穫のときを待ちます」

こうして主力品種のシャインマスカットは、糖度約18度、1房約700グラムと立派に育っていきます。

本場の産地より一足早くぶどうの食べ比べが楽しめる！

菅谷さんはシャインマスカットとクイーンニーナを中心に、10種類以上の品種を栽培しています。不動の



①



②



③

①収穫期を迎えたシャインマスカット ②小さいうちに粒を間引く ③鉢に植わったぶどうの様子を確認する菅谷亮介さん